

兵庫県立福崎／播磨福崎高等学校
図書だより



2025 年 11 月号

後期図書委員長・岸本さんより

本の魅力を知ってもらうためにも、精一杯がんばっていきます。
様々な活動を行っていかうと思っているので、その活動にも目を留めて
いただけたら幸いです。これからよろしくお願いします。

委員長のアイディアで、1・2年生の図書委員がポスターを
作成しています。クラスに貼ってあるはず！

図書室・開室予定(11・12月分)

令和7年度 後期図書室開室予定表

昼休み(毎日)12:55~13:10、放課後(月・水・金)15:40~16:30

月曜日		火曜日(昼のみ)		水曜日		木曜日(昼のみ)		金曜日	
11/10	○	11/11	△	11/12	○	11/13	△	11/14	○
11/17	○	11/18	△	11/19	○	11/20	△	11/21	○
		11/25	△	11/26	○	11/27	△	11/28	○
12/8	△	12/9	△	12/10	△	12/11	△	12/12	△
12/15	△	12/16	△	12/17	△	12/18	△	12/19	△
12/22	△	12/23	△					1/9	△

3年生のみなさん、
受験も追い込みの時期になりました。
毎日、17:30 までは図書室を開けています
ので、自習にも使ってください。
もちろん、1・2年生もどうぞ。
(△の日の貸出はお昼休みのみです)

新着図書～ただいま注文中～

「自分の弱さを知る 宇宙で見たこと 地上で見えたこと」
野口 聡一 大江 麻理子

「VISION 夢を叶える逆算思考」 三苫 薫

「余命一年と宣告された僕が余命半年の君と出会った話」
森田 碧

「サーカスの夜に」 小川 糸

「夏の体温」 瀬尾 まいこ

「あなたの言葉を」 辻村 深月

「サーペントの凱旋 隣のナースエイド」 知念 実希人

図書委員のオススメ本

今回は、図書室（学級図書としてクラスに持って行ったものを含みます）にある本を中心にオススメしてもらいました。図書室に探しに来てくださいね！

●『クマのプーさんの哲学』 ジョン・T・ウィリアムズ

プーさんといろいろな世界の人々や社会などを関連づけて書いてあります。

プーさんについてわかります。たとえば、プーさんは「頭の悪いクマ」と呼ばれているけれど、この本では、頭の良いクマだと証明されておもしろいです。

●『あと少し もう少し』 瀬尾まいこ

中学の男女陸上部ではメンバーが足りず、寄せ集めチームで駅伝の県大会出場を目指している。それぞれが問題を抱えているが、チームで解決していく。

区間ごとにストーリーが分けられており、とても読みやすい。読んだ後には爽やかな気分になり、勉強や部活をがんばりたくなる。陸上部はもちろん、他の部活の人にも読んでほしい。

●『十七歳で考えたこと』 三田誠広

高校生の主人公が住建や社会の価値観に疑問を持ち、生きる意味を考え自分なりの生き方を見つけようとする物語。

主人公と自分を比べてみて読んでみるのがおすすめです。

●『インサイドヘッド』 スーザン・フランシス

少女ライリーの頭の中にある5つの感情たちが、引っ越しによる心の混乱を乗り越え、成長する物語。

自身の感情や心について考えるきっかけを与えてくれます。

●『変な家』 雨穴

知人が購入を検討している都内の中古一軒家。開放的で明るい内装の、ごくありふれた物件に思えたが、間取り図に「謎の空間」が存在していた。知り合いの設計士にその間取りを見せると、この家はそこかしこに「奇妙な違和感」が存在するという。不可解な間取りの真相とは？

有名で、不気味な雰囲気があり、読みやすくおもしろいです。

●『ハリネズミは月を見上げる』 あさのあつこ

「16歳の夏、私は彼女に出会った」 引っ込み思案な高校生・鈴美の前にあらわれた同級生の比呂。自分と全く違う彼女に圧倒された鈴美は、その背中を追いつめる。二人の正反対の少女が悩みながら成長する友情物語。

共感できる部分がたくさんあっておもしろいし、一気に読みできるほど話にのめり込めるところがポイントです。また正反対の少女が出会うということもおもしろいです。

●『「繊細さん」の幸せリスト』 武田友紀

話題の「HSP（とても繊細な人）専門カウンセラー」が“繊細さん”だから感じられる「幸せの53のコツ」を教えてください。

あなたの「繊細さ」は「幸せを感じるため」のすてきな才能。あなたの悩みに寄り添ってたくさんの幸せになれることを一緒に考えてくれます。

●『君たちはどう生きるか』 吉野源三郎

中学生のコペル君が、学校や友だち、家族との出来事を通して「自分たちはどう生きるか」ということを考えていく話です。叔父さんの手紙や日々の出来事に触れながら、少しずつ自分なりの答えを見つけていきます。

この本は考えさせられることがいっぱい、自分の生き方や周りとの関わり方を見直すきっかけになります。読んで損はないし、人生についてちょっと考えたい時にぴったりの一冊です。

●『52 ヘルツのクジラたち』 町田そのこ

人との関わりに傷ついた主人公は、海辺でひとり暮らしている。ある日、孤立した少年と出会い、2人は心を通わせながら、孤独の中で希望を見つけていく。

この本は、「孤独」と「優しさ」を静かに描いた心に残る物語です。人とつながることの難しさや、声にならない想いを抱える苦しさや丁寧な描写が描かれています。それでもたった1人でも自分を理解してくれる人がいれば、人は前に進める—そんな希望を感じさせてくれるところがおすすめです。